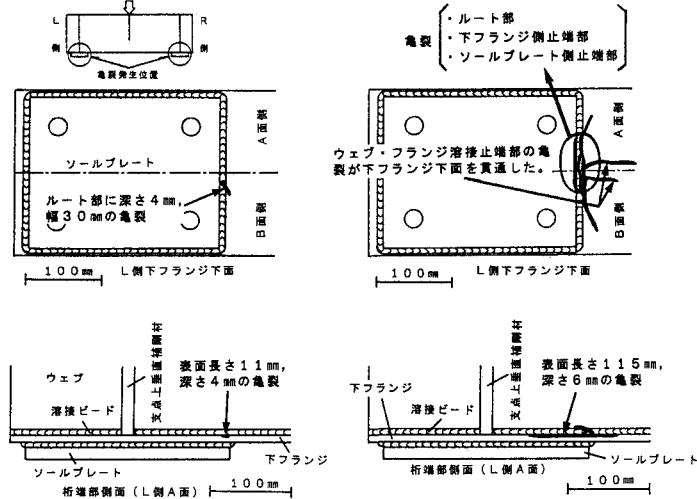


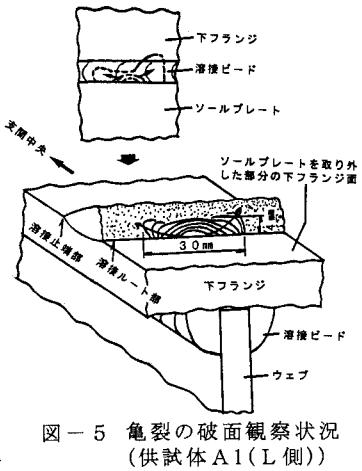
(2) 各供試体の疲労強度

各供試体の疲労強度については、表－2中の繰返し回数換算値および図－2～4の試験終了後の亀裂の進展状況より次のことが推定される。

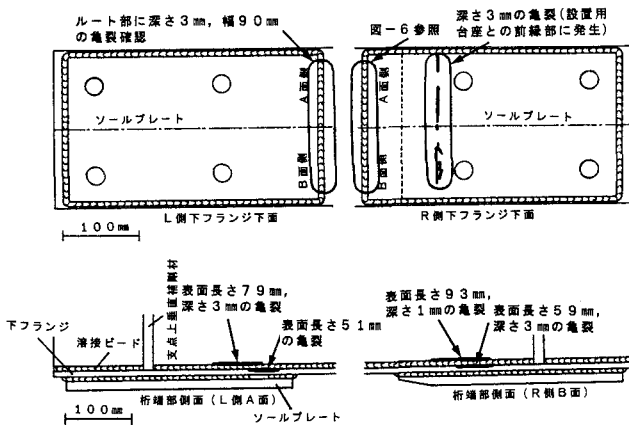
- ① 供試体A1とA2……………試験終了後の亀裂の進展状況からすれば、逆ひずみを残さない供試体A1の方がA2と比較して疲労強度は高いと考えられる。
- ② 供試体A1,2と供試体C ……供試体A2と供試体Cとの疲労強度の大小を比較するには今後の検討を要するが、少なくとも供試体A2と供試体Cを比較すれば、供試体Cの方が疲労強度は高いと考えられる。
- ③ 供試体CのL側とR側……………両側とも同様な亀裂が発生しており、テーパ付きの効果は今回の疲労試験では必ずしも明確な差は見られなかった。



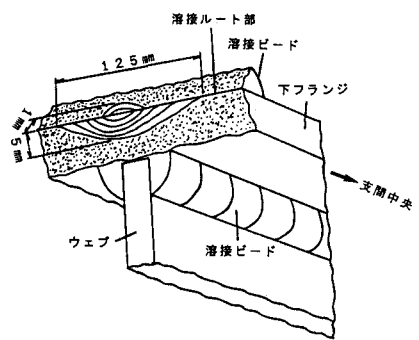
図－2 供試体A1の亀裂進展状況 図－3 供試体A2の亀裂進展状況



図－5 亀裂の破面観察状況 (供試体A1(L側))



図－4 供試体Cの亀裂進展状況



図－6 亀裂の破面観察状況 (供試体C(R側))

4. あとがき 今後各種調査によって得られた成果を総合して損傷原因の解明、補修方法の提案および疲労に配慮した細部構造を明らかにしていく予定である。最後に疲労亀裂の破面観察を行うにあたり、(株)横河ブリッジの名取暢氏からご協力頂いた。ここに感謝致します。

【参考文献】1) 西川, 村越, 佐々木, 広瀬: 鋼桁支承ソールプレート部の構造が局部応力に及ぼす影響について、土木学会第47回年次学術講演会、平成4年9月